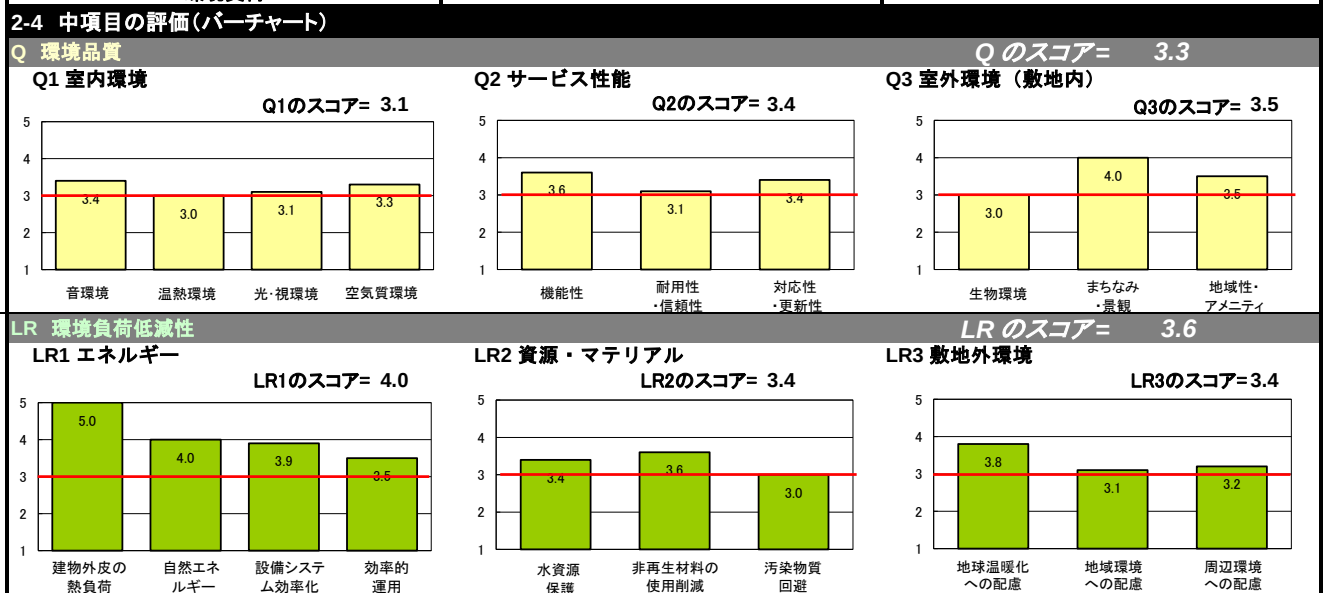
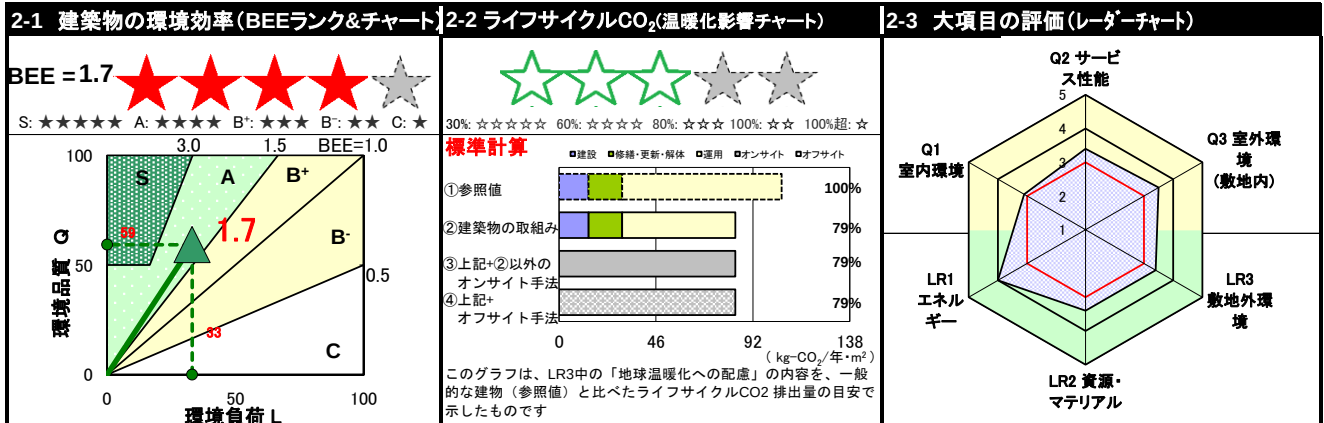


CASBEE®名古屋

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE 評価マニュアル(2014年改訂) ■省エネルギー等に関する建築環境性能評価システム(2014年改訂) (使用評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v3.0))

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	東海技術センター新1号館	階数	地上4F
建設地	名古屋市名東区猪子石二丁目703番、704番、705番、706番、710番、711番、712番	構造	S造
用途地域	第1種住居、第2種住居地域、準防火地域	平均居住人員	120 人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,500 時間/年(想定値)
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2027年11月 予定	評価の実施日	2025年9月19日
敷地面積	4,866 m ²	作成者	
建築面積	766 m ²	確認日	2025年9月26日
延床面積	2,191 m ²	確認者	



3 設計上の配慮事項	
総合	その他
名古屋市長東区の事務所の別棟増築計画である。 従業員の交流スペースを各階ステップ状とし、バルコニーを緑地した外観が街並みに対して緑の潤いとアクセントを提供する。	
Q1 室内環境	Q2 サービス性能
F☆☆☆☆かつ低VOCの建築材料を使用し、室内空気環境を良好に保つための配慮をしている。	耐用年数の長い材料・仕上げ材を選定し、建物の耐用性の向上に配慮している。
Q3 室外環境(敷地内)	
自生種の保全・地域の植生に配慮した緑地づくりを行い、周辺のまちなみ調和に配慮した景観計画としている。	
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル
自動制御システム等により消費エネルギーの把握・効率的な設備運用が可能な計画としている。	建物の内外装材にリサイクル材料を使用し、建物の環境負荷低減に配慮している。
LR3 敷地外環境	
周辺への公害を防止する屋外照明計画としている。	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目スコア・結果シート

東海技術センター新1号館

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル

■評価ソフト:

CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する 重み係数	重点項目 スコア
1. 温暖化対策				3.9
LR1	エネルギー	4.1	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	3.8	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.05	
2. 自然共生				3.1
Q3.1	生物環境の保全と創出	3.0	0.09	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	有	0.009	
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	3.0	0.045	
3. 循環型社会				3.6
LR2.1	水資源保護	3.4	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	3.6	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	3.7	0.01875	

結果

1. 温暖化対策

評価点 = 3.9



2. 自然共生

評価点 = 3.1



3. 循環型社会

評価点 = 3.6



重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。